

ピアノを弾こう!

教室訪問 PART 2 第3回

子どものレッスン、大人のレッスン、さて今回は?

間違いは成長への通過点。 間違いの先に発見がある

今回訪問したのは、神奈川・相模原市のヤマハ特約楽器店「相模楽器」のピアノ教室だ。自身が小5の男の子のママである雨宮裕美先生。「子育てを経験したことで、レッスンでも子どもたちの成長のタイミングが敏感につかめるようになりました」と話す。

子育てを経て、変化したレッスン方法

この日の生徒は、ピアノを始めて2年目の高橋晶ちゃん。雨宮先生のレッスンは、向かい合って「こんにちは〜」とお辞儀をするところから始まった。

晶ちゃんが、「かわいいことり」(NEWピアノスタディ2)のページを見て首をかしげている。「先生、この鳥はどうして木に止まっているの?」。レパートリーの楽譜に添えられた、森でさえずる鳥のイラストが気になって仕方がない。「ノラ(野生)なのに、どうして首輪(リボン)をしているの?」「飼われているのかもね」「フ〜ン」。晶ちゃんは納得したようなしなやかな表情で、レッスン再開…。子どもらしさ全開の晶ちゃんと先生の会話に、吹き出しそうになった。「想像力を刺激するイラストは小さい子どもに効果的で、表現の幅を広げることにつながっています」

この教材は、ハーモニー、リズムなどバランスよく要素が入っているため、生徒の個性に合わせていろいろなアプローチができる。「生徒の状況に応じて、また、曲によってメロディから始めたり、ワークブックの中にあるドリルなどで指慣らしをしたり、伴奏を始めたりと、取りかかる手順もさまざまです」。そんな生徒たちが、「ピアノを弾け



さあ、レッスンしましょっ!

今月の先生と生徒

雨宮裕美先生

あめみや・ひろみ ● 国立音楽大学卒。相模楽器の専属講師として、週4日教える。生徒数は約30人。ヤマハ音楽振興会東日本エリアのPSTA講座スタッフ。育児とピアノ講師の仕事を両立させているが、「自分の子どもにピアノを教えることがいざばん難しい!」と、別の教室に通わせているようだ。

高橋晶ちゃん(小1)

小5の兄を追いかけるように、雨宮先生の個人レッスンを始めて約2年。向上心が強く、身体的に成長して指がよく動くようになったせいか、「今は、速く弾きたい時期」(雨宮先生)だ。

「先生が弾いてみるからね」。最初は横から覗いていた晶ちゃんが、指の動きを見ようと、いつのまにか雨宮先生の懐にすっぽり。

ピアノは、水やりをしたあとで弾くの



雨宮先生のレッスン流儀 指の運びが遅くても間違えても、途中で止めずに待っている

るようになっていく姿を見るのが楽しみ」と、雨宮先生。

子育てをしたことで、レッスン方法も変わった。「一番大きな変化は、「待てるようになった」こと。たとえ子どもが間違えたりしても、途中で止めなくなりました。この間違いは成長の通過点。間違えた先に子ども自身が発見をして、音楽を作っていく。その変化を待てる余裕ができたことですね」

と言いつつ、理想の指導者像は元テニスプレーヤーの松岡修造。「本気で生徒に向き合う」雨宮先生も、熱心講師です!

優しい笑顔で、指の運びを教える雨宮先生。こんな時は「ママの顔」だが、家では「息子がピアノを弾いていても聴かない振りをする」

雨宮先生とハイタッチをしながら、スタックカートのリズム打ちをする晶ちゃん



もっと上手になりたいな♡

約30分のレッスンは終わりましたが、ピンクのレッスンバッグを抱えて帰ってきた晶ちゃん



「レッスンでは、あ、できた!という子どもたちの小さな達成感を大事にしています」と、雨宮先生。



今月のピアノ教室

神奈川・相模原市/相模楽器大野センター



ヤマハ特約楽器店「相模楽器大野センター」では、5部屋すべてにグランドピアノと防音室(アビテックス)を完備し、レッスンしている。店舗を併設しているため、レッスンの行き帰りに楽譜や音楽グッズを見るのも楽しみの一つになっている。■神奈川県相模原市南区相模大野4-5-17ロビーファイブ商店街 ☎042-743-4545 / 小田急線「相模大野駅」北口より徒歩8分